

平成27年 3月31日

佐賀市長 秀 島 敏 行 様

武雄市武雄町昭和6-5

A S S R株式会社

代表取締役 納 富 奈 緒 子 印

業務委託報告書について

標記の件について、以下のとおり提出いたします。

業務委託報告書

委託業務名	佐賀市発達障がい者支援体制整備事業
契約期間	平成26年11月10日から平成27年 3月31日
事業目的	障害児・者を支援している事業所等の職員に対し、発達障害児・者の行動障害についての基礎的な知識や支援に関する技術等について、それらを習得する機会や専門的な助言を受ける機会を設けることにより、行動障害を有する発達障害児等を受け入れる事業所を拡大し、発達障害児・者等に関する適切な支援を行うこととする。
事業実施内容	<p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none">事例検討を含む研修会の開催施設へ出向いての現地研修の実施参加施設の職員に対するアンケートの実施 <p>【事業報告】</p> <ol style="list-style-type: none">事例検討を含む研修会の開催 ：行動障害がある利用児・者を受け入れている佐賀市および佐賀市が支給の決定をした利用者がある佐賀市近隣の市町に所在する施設のうち、3施設を選定し（選定は委託者が実施）、それら施設の職員を対象に研修会を実施した。 選定した3施設は次のとおり<ul style="list-style-type: none">放課後等デイサービスきらめき放課後等デイサービスたいよう (以上：運営法人は株式会社クローバー)かるがもホーム小城（グループホーム）<ul style="list-style-type: none">かるがも（就労継続支援B型） (以上：運営法人はNPO法人かるがも)開催日時および研修内容等については以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none">開催日時及び講座内容（1回当たり1時間半・計4回開催） 講師：服巻智子（アナザープラネット顧問）<ul style="list-style-type: none">11月26日（水）…障害者虐待の防止の視点から自閉症の知識の必要性を講義12月 3日（水）…自閉症とは（自閉症の原因や特性の説明。発達障害のある著名人や歴史上の人物を挙げて、自閉症の特性が優れた能力として発揮された例を紹介） 氷山モデル、機能分析の紹介

事業実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月10日（水）…参加各施設の行動障害がある利用者の問題行動等に対する効果的な支援方法の検証、機能分析を用いたグループ演習等 ・ 12月17日（水）…参加各施設の行動障害がある利用者の問題行動等に対する効果的な支援方法の検証、構造化など環境配慮に関する事例紹介等 <p>2) 参加者数 のべ <u>72人（実人員 22人）</u></p> <p>3) 会場 佐賀勤労者総合福祉センター（佐賀市兵庫北3丁目）</p> <p>2 施設へ出向いての現地研修の実施 ：現地研修を実施する前に各事業所で現在対応に困っている事例（行動障害がある利用児・者）のアンケート調査を実施した。 アンケートの結果を踏まえ、実際に施設を訪問し、参加した3施設が挙げた行動障害がある利用児・者の施設での様子や支援者の対応状況を観察した。その後、支援者を集めて対象者の問題行動に対する効果的な対応や構造化の取り入れ方など具体的な支援方法を指導した。また、現地指導後は支援の定着に向け、指導した支援方法が適正に行われているか、指導の効果が表れているかを確認するため再度施設を訪問したり、電話による事後フォローを実施した。</p> <p>1) 訪問日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後等デイサービスきらめき 1回目： <u>平成27年1月30日</u> ・ 放課後等デイサービスたいよう 1回目： <u>平成27年1月26日</u> 2回目： <u>平成27年1月30日</u> 3回目： <u>平成27年3月23日</u> ・ かるがもホーム小城（グループホーム） ・ かるがも （就労継続支援B型） 1回目： <u>平成27年1月19日</u> <p>3 添付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者（受講者）一覧 ・ 研修会資料（テキスト） <ul style="list-style-type: none"> ・ 自閉症とは ・ 障害者福祉施設・事業所における障害者虐待の防止と対応の手引き （以上、第1回・第2回研修会時使用） ・ 参加施設利用児・者の問題行動例資料（第3回・第4回研修会時使用） ・ アンケート様式 ・ 研修会風景写真（第1回目・第2回目） ・ 現地研修時写真（「かるがも」・「たいよう」訪問時） ・ 現地指導後の変化写真（「かるがも」・「たいよう」） ・ 受講後の利用者の変化 ・ 収支報告書
--------	---

成 果	<p>今回の事業では、仕様書により、事業を受けることができる施設の数2施設（実際には3施設）としたので密度の濃い研修ができた。また、事業を受講した（施設の）職員からも、事業（研修）に対する真剣さや熱心さがうかがえた。</p> <p>事業終了後の職員の感想では、「利用児（者）がどうして問題行動を起こすのかがわかった。」「具体的に支援方法を教えてもらい、わかりやすかった。」「実際に教えてもらった支援の効果が表れている。」など肯定的な感想を記したものがほとんどであった。</p> <p>今回の事業により、事業を受講した施設へは、行動障害がある発達障害児や発達障害者への効果的な支援方法を伝えることができたと思われ、それらの者の今後の受入れの拡大に寄与するものと思われる。</p>
-----	--

研修受講者の感想

1 かるがも

- ・夜間の時間に講座を設定してもらい、事業所の仕事が終わった後に多くの職員が参加しやすかった。日中の研修では限られた職員のみでの参加になるが、夜間の研修で現場スタッフの多くが参加できたことで学びを共有できるため、支援方針を変更する際も職員の理解が得られやすくなった。
 - ・研修を受けたことで、知的障害との対応の違いが分かり発達障害に対する職員の認識・関心が高まっている。たとえば、今までは「わがまま」としか捉えていなかった行動にも本人の訴えが隠れていることが分かったり、自閉症特有の常同行動（飛び跳ね）に対し今までは「止めなさい」と注意していたが止めることはできないことを知り、今では温かく見守ることが出来ている。
 - ・今までは特性をきちんと理解しないままに行動を抑制し、利用者にストレスを与えていたことに気付き反省している。今では、少しずつ行動の意味を理解して対応するようになった。また、職員が共通認識をもって利用者にかかわれるようになり支援が統一できるようにもなった。
 - ・具体的な事例を通して、構造化や機能分析などいろいろなパターンを紹介してもらい、実際に現場での応用を考えやすかった。
 - ・環境の配慮も始めは難しく捉え、現状では環境を変えることはできないと考えていた。しかし、実地指導でお金や手間をかけなくてもできる方法などを具体的に紹介してもらい、実際の支援現場でも「できることから始めてみよう」を合言葉にダンボールの仕切りや本人専用の個室・作業机の設定など行っている。また、特性に合わせた仕事内容の見直しも行っている。
 - ⇒ ・不要な情報を遮断することで本人のパニックも少なくなり、作業効率がアップした
 - ・職員も対応しやすくなった。
 - ・個室に移すことは寂しいのではないかと以前は思っていたが、今は本人がその方が楽になるということがきちんと分かって対応できている。
 - ・パン製造の工程も言葉ではなく絵カードを作って対応している。以前よりも指示が通りやすくなり、作業がスムーズに進むようになった。
- ※ まだ試行の途中であるが目に見えて効果が現れていることがわかる。

2 たいよう・きらめき

- ・講座や実地指導も具体的で実践的な内容だったので現場の支援に即生かしやすかった。
- ・今まで行動の意味をきちんと理解せずに対応していたが、子どもが大人の注意を引くために話す意味のない言葉には反応をしない等、職員の対応を少し変えるだけで事業所が嘘のように静かになったので驚いている。
- ・実地指導のアドバイスを受け、家具の配置を変えクールダウンの部屋や一人になれる場所を作ったり、勉強する机にダンボールで仕切りを設けるなどの工夫を行ったことで、子どもたちが今まで以上に集中して遊びや宿題に取り組めるようになった。クールダウンの部屋は環境設定や誘導の仕方など、今はまだうまく活用できていないが活用を模索している。
- ・問題行動の原因になるものは排除するように心がけたことで、問題が起きる頻度も少なくなった。
- ・発達障害に対する職員の理解と理論に基づいた対応をきちんと実践することで、子どもの反応が

目に見えて違ってきている。職員の自信にもなっていると思う。

- ・利用者ごとに支援の方法や注意点をまとめたノートを作成し、職員が共有できるような仕組みを作った。
- ・今までのアセスメントの情報量が少なかったということが分かり、一人ひとりにきちんと再アセスメントを実施している。学校やその他の関係機関との連携もとるようにした。

※今後は会社としてアナザープラネットとコンサルテーション契約を結び、月1回アドバイスに来てもらっているほか、適宜電話で相談に応じてもらっている。

受講後の利用者の変化

1. かるがも

【 25 歳・男性 】（診断名：自閉症、アスペルガー症候群）

受講前	自分は能力が高いと思い込み、集団作業（パン製造）になると他の利用者を見下し、言葉で相手を攻撃することで毎日トラブルが見られる。また、性的興味が強く、職員の目が届かない場所で、女性利用者に対し過剰なスキンシップを取ろうとする。職員や他の利用者から行動を注意されるなどしてストレスを貯めると、手の甲を強くむしり自傷行為が見られる。
受講後	集団作業のパン製造から担当を外し、本人が得意なパソコンを使った名刺作成を新たに作業に追加した。壁に向かう本人専用の作業机を設けたこと、同じ場所で作業する利用者を物静かな方に限定したことで集中して作業に取り組みやすくなり利用者とのトラブルも週数回に減少している。また、常に職員の目が届く環境を作ることで女性利用者への過剰なスキンシップも見られなくなった。トラブルが少なくなったことで本人のストレスも減り、自傷行為も少なくなっている。

2. たいよう

【 13 歳・男児 】（診断名：ASD）

受講前	多動傾向があり、事業所では常に動き回っている。また、性に興味があり、人形を自分の股間に当てたり、人形の服を脱がせて裸にする。他の女兒の体に手を入れようとする行動が週 1 回は見られている。全体的に生活リズムが安定せず、事業所から帰宅後すぐに就寝し夜中に起床するなど夜逆転傾向が見られていた。
受講後	日中睡眠不足があることが本人のイライラの原因になっていることが分かり、事業所利用時にクールダウンのスペースを使って仮眠を取るようになった。睡眠不足が解消することで生活リズムが安定し、本人のイライラも少なくなって落ち着いて過ごしている。また、性的興味については問題行動の原因となるもの（人形）を排除することで行動も見られなくなっている。

3. きらめき

【 12 歳・女兒 】（診断名：ASD）

受講前	遊びのパターンが、ガムテープを貼って剥がす行動のみでバリエーションが無く、ストレスが溜まると、自分の指をしゃぶったり、顔を叩く行為が見られる。悪化すると職員を叩いたり、大泣きして暴れたりすることがあった。
受講後	活動に集中できるよう、机にダンボールで仕切りを作成した結果、宿題など机で行う活動は、以前よりも集中できるようになった。ご褒美システムを採用し、スタッフのお手伝いや課題がクリアできると 10 円の対価を渡し、目に見えるところに表示することで活動にも積極的に参加できるようになり、かんしゃく等のトラブルも以前よりも少なくなった。